2026.4.1

分野	基礎分野	配当時期	2 年 前 期	講義担当者
教育内容	人間と生活･社会の理解	単位数	1 単位	立石 和子
科目名	教育学	時間数	15 時間 8 回	

科目概要

教育の意義と本質について学び、看護の教育的役割を理解する。今日の教育の課題にも触れながら、現代の教育に求められているものを考察する。対象を教育発達の視点で捉えて、患者指導に役立てることができる。

授業目標

1 教育とは何について説明することができる。
2 教授、教訓、養護、発達の違いについて説明できる。
3 学びの場である家庭と学校について説明できる。
4 教育の目標と評価の概念、評価の実際について述べることができる。
5 現代教育の課題について自己の考えを述べることができる。

DPとの関連		
	○	1.生命の尊厳と人格を尊重し、看護の対象を全人的に理解する力を身につけている。
	○	2.健康課題に対して、科学的根拠に基づく看護を実践できる基礎的能力を身につけている。
		3.地域で暮らす人々の健康課題に関心を寄せ、様々な社会資源を活用し、対象の支援を考える基礎的能力を身につけている。
		4.看護専門職として責任をもち、保健･医療･福祉の一員として協働できる力を身につけている。
	○	5.誠実な態度で自己研鑽し続ける力を身につけている。

授業の流れ(全体のスケジュール(回数)･学習内容･方法･備考 等)

回	学習内容と成果	方法	備考
1	教育概説① ･教育の概念 ･教育の対象	講義	
2	教育概説② ･社会変動と教育	講義	
3	教育を成り立たせるもの① ･教授 ･訓育について	講義	
4	教育を成り立たせるもの② ･養護 ･発達について	講義	
5	教育の営み① ･学びの場	講義	
6	教育の営み② ･教育の目標と評価 ･パフォーマンス評価 ･評価の開発と実践	講義	
7	教育の場の変動① ･教師－子ども間のやりとり ･学習者どうしのかかわり ･教育理念･教育方針 ･公教育における義務と権利	講義	
8	教育の場の課題② ･現代教育の課題	グループワーク	

受講上の注意

学生自らも学ぶ立場であることもあわせて教育について考察していく。
看護者として教育を行うことを考え教育を身近なものとして捉える。

評価方法
筆記テスト 70%　 平常点(授業態度、提出物など)30%
使用するテキスト
「系統看護学講座 基礎分野 教育学 第 8 版」, 木村元 編, 医学書院, 2026 年
参考文献
「教育学入門」, 広岡義之 著, ミネルヴァ書房, 2020 年 「教育学をつかむ」, 木村元 著, 有斐閣社, 2019 年

分野	専門基礎分野	配当時期	2 年 前 期	講義担当者
教育内容	人体の構造と機能	単位数	1 単位	能間 国光
科目名	形態機能学	時間数	20 時間 10 回	

科目概要

解剖生理学で学んだ知識を、看護の視点で身体を診ることができるよう、生活行動面から知識を深長する。

授業目標

1 からだの構造と機能をどのように使って日常生活を営でいるのか理解できる。
2 生きていることを支える日常生活行動を知ることができる。

DPとの関連		
	○	1.生命の尊厳と人格を尊重し、看護の対象を全人的に理解する力を身につけている。
		2.健康課題に対して、科学的根拠に基づく看護を実践できる基礎的能力を身につけている。
		3.地域で暮らす人々の健康課題に関心を寄せ、様々な社会資源を活用し、対象の支援を考える基礎的能力を身につけている。
		4.看護専門職として責任をもち、保健・医療・福祉の一員として協働できる力を身につけている。
	○	5.誠実な態度で自己研鑽し続ける力を身につけている。

授業の流れ(全体のスケジュール(回数)・学習内容・方法・備考 等)

回	学習内容と成果	方法	備考
1	からだのつくり(ワーク)	講義	
2	何のための生活行動か	講義	
3	からだの知識と日常生活行動をつなぐ① ・物質の流通	講義	
4	からだの知識と日常生活行動をつなぐ② ・恒常性維持のための調節機構	演習	
5	からだの知識と日常生活行動をつなぐ③ ・動く	演習	
6	からだの知識と日常生活行動をつなぐ④ ・食べる	演習	
7	からだの知識と日常生活行動をつなぐ⑤ ・息をする	演習	
8	からだの知識と日常生活行動をつなぐ⑥ ・トイレに行く	演習	
9	からだの知識と日常生活行動をつなぐ⑦ ・話す・聞く ・眠る・ストレスとからだ	演習	
10	からだの知識と日常生活行動をつなぐ⑧ ・お風呂に入る ・子どもを生む	講義	

受講上の注意

評価方法

筆記テスト 80% 授業態度(レポート提出含む)20%

使用するテキスト
「看護 形態機能学 生活行動からみるからだ 第 4 版」, 菱沼典子 著, 日本看護協会, 2025 年 「看護形態機能学ワークブック 体験して考えるからだのいとなみ 第 1 版」, 菱沼典子 著, 日本看護協会, 2023 年
参考文献
なし

分野	専門基礎分野	配当時期	2 年 前 期	講義担当者
教育内容	人体の構造と機能	単位数	1 単位	石井 妙子
科目名	栄養学	時間数	15 時間 8 回	

科目概要

栄養代謝機能、消化・吸収機能として、外界から取り入れる物質である栄養を摂取することの目的と意義を理解し、生活を調整するための食事療法の基本について学ぶとともに、各ライフステージにおける健康生活と疾患・症状・場面に応じた栄養食事療法を学び専門分野を理解するための基礎とする。

授業目標

1 生体が正常な営みを行うのに必要な栄養代謝について理解できる。
2 栄養状態のアセスメント方法、判定方法を理解できる。
3 各ライフステージにおける栄養について理解できる。
4 さまざまな疾患・症状・場面に応じた総合的な栄養管理について理解できる。

DPとの関連		
	○	1.生命の尊厳と人格を尊重し、看護の対象を全人的に理解する力を身につけている。
	○	2.健康課題に対して、科学的根拠に基づく看護を実践できる基礎的能力を身につけている。
	○	3.地域で暮らす人々の健康課題に関心を寄せ、様々な社会資源を活用し、対象の支援を考える基礎的能力を身につけている。
		4.看護専門職として責任をもち、保健・医療・福祉の一員として協働できる力を身につけている。
		5.誠実な態度で自己研鑽し続ける力を身につけている。

授業の流れ(全体のスケジュール(回数)・学習内容・方法・備考 等)

回	学習内容と成果	方法	備考
1	栄養学とは 栄養素の種類とはたらき	講義	
2	栄養素の消化・吸収 栄養素の代謝	講義	DVD
3	栄養ケア・マネジメントと栄養状態のアセスメント	講義	
4	ライフステージと栄養	講義	DVD
5	臨床栄養	講義	DVD
6	疾患・症状・場面別食事療法①	講義	
7	疾患・症状・場面別食事療法②	講義	
8	疾患・症状・場面別食事療法③	講義	

受講上の注意

全ての看護学の土台となるため、自ら学ぶ姿勢をもち積極的に学ぶこと。

評価方法

筆記テスト 80% 平常点(授業態度、提出物など)20%

使用するテキスト

「系統看護学講座 専門基礎分野 栄養学 第14版」, 中村丁次・他 著, 医学書院, 2026
「系統看護学講座 別巻 栄養食事療法 第5版」, 足立佳代子・他, 医学書院, 2026

参考文献

なし

分野	専門基礎分野	配当時期	2 年 前 期	講義担当者
教育内容	健康支援と社会保障制度	単位数	2 単位	柳井 圭子
科目名	社会保障・社会福祉	時間数	45 時間 23 回	

科目概要

社会保障、社会福祉の概要を学び、現代社会の変化と社会保障・社会福祉の動向に応じた保障制度を理解する。また、医療現場・地域社会における社会福祉実践の共通基盤として、多職種連携の重要性について理解する。

授業目標

1 社会保障制度と社会福祉制度の概要が理解できる。
2 社会保障制度と社会福祉制度の課題に応じた保障制度が理解できる。
3 社会福祉実践に必要な援助技術が理解できる。

DPとの関連		
	○	1.生命の尊厳と人格を尊重し、看護の対象を全人的に理解する力を身につけている。
		2.健康課題に対して、科学的根拠に基づく看護を実践できる基礎的能力を身につけている。
	○	3.地域で暮らす人々の健康課題に関心を寄せ、様々な社会資源を活用し、対象の支援を考える基礎的能力を身につけている。
	○	4.看護専門職として責任をもち、保健・医療・福祉の一員として協働できる力を身につけている。
		5.誠実な態度で自己研鑽し続ける力を身につけている。

授業の流れ(全体のスケジュール(回数)・学習内容・方法・備考 等)

回	学習内容と成果	方法	備考
1	社会保障制度と社会福祉① ・社会保障制度	講義	
2	社会保障制度と社会福祉② ・社会福祉の法制度	講義	
3	現代社会の変化と社会保障・社会福祉の動向① ・現代社会の変化	講義	
4	現代社会の変化と社会保障・社会福祉の動向② ・社会保障・社会福祉の動向	講義	
5	医療保障① ・医療保障制度の沿革 ・医療保障制度の構造と体系 ・健康保険と国民健康保険	講義	
6	医療保障② ・高齢者医療制度 ・保険診療のしくみ ・公費負担医療 ・国民医療費	講義	
7	介護保障① ・介護保険制度創設の背景と介護保障の歴史	講義	
8	介護保障② ・介護保険制度の概要 ・介護保険制度の課題と展望	講義	
9	所得保障① ・所得制度のしくみ ・年金保険制度	講義	
10	所得保障② ・社会手当 ・労働保険制度	講義	
11	公的扶助① ・貧困・低所得問題と公的扶助制度	講義	

12	公的扶助② ・生活保護制度のしくみ	講義	
13	公的扶助③ ・低所得者対策　　・近年の動向	講義	
14	社会福祉の分野とサービス① ・高齢者福祉	講義	
15	社会福祉の分野とサービス② ・障害者福祉	講義	
16	社会福祉の分野とサービス③ ・障害者福祉制度の歴史的展開	講義	
17	社会福祉の分野とサービス④ ・児童家庭福祉	講義	
18	社会福祉実践と医療・看護① ・社会福祉援助とは　　・個別援助技術	講義	
19	社会福祉実践と医療・看護② ・集団援助技術　　・間接援助技術と関連援助技術	講義	
20	社会福祉実践と医療・看護③ ・社会福祉援助の検討課題 ・医療・看護・福祉の連携の重要性	講義	
21	社会福祉実践と医療・看護④ ・社会福祉実践と医療・看護との連携	講義	
22	社会福祉の歴史① ・社会福祉の歴史の見方　・イギリスの社会福祉の歴史	講義	
23	社会福祉の歴史② ・日本の社会福祉の歴史	講義	

受講上の注意

事前に教科書や講義資料に目を通し、自ら学ぶ姿勢をもち積極的な参加を求める。

評価方法

筆記テスト 80%　課題(提出状況・内容)20%

使用するテキスト

「系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度 3　社会保障・社会福祉 第 27 版」,
福田素生・他 著, 医学書院, 2026 年

参考文献

「国民衛生の動向」, 一般財団法人 厚生労働統計協会

分野	専門分野	配当時期	2 年 前 期	講義担当者
教育内容	基礎看護学	単位数	1 単位	桑野 ゆかり 佐藤 みゆき 入江 奈津美
科目名	診療の補助技術Ⅰ	時間数	30 時間 15 回	

科目概要

診療における検査・治療・処置は心身に苦痛を与えるものも多い。対象者が検査・処置の必要性を理解し、主体的に行動できるよう支えるための看護師の役割を学ぶ。そして検体採取や様々な治療・処置の方法を理解し、安全で負担の少ない処置が提供できるための援助技術を学ぶ。

授業目標

診察・検査における看護の実際と看護師の役割について理解し、基本的技術が実施できる。

＜呼吸・循環を整える技術＞
1 呼吸・循環を整えるために必要な基礎知識がわかる。
2 対象者が安全・安楽に呼吸を整えるために必要な援助技術を理解する。
3 治療や処置に伴う苦痛などに配慮した援助方法を理解する。

＜創傷管理＞
1 創傷の治癒に必要な基礎知識を理解する。
2 創傷処置と褥瘡予防の方法を理解する。
3 包帯法の原則に則った基本的な固定を理解する。

＜検査＞
1 診察・検査・処置における看護師の役割について理解する。
2 各種検査の目的と方法について理解する。
3 各種検査・処置を介助する際の注意点と患者の苦痛に対する配慮を理解する。

＜採血＞
1 静脈血採血の方法と注意事項を理解する。
2 対象者が安全に採血を終えるために必要な技術を理解する。
3 採血を必要とする対象者に応じた援助方法について理解する。

DPとの関連		
	○	1.生命の尊厳と人格を尊重し、看護の対象を全人的に理解する力を身につけている。
	○	2.健康課題に対して、科学的根拠に基づく看護を実践できる基礎的能力を身につけている。
	○	3.地域で暮らす人々の健康課題に関心を寄せ、様々な社会資源を活用し、対象の支援を考える基礎的能力を身につけている。
	○	4.看護専門職として責任をもち、保健・医療・福祉の一員として協働できる力を身につけている。
	○	5.誠実な態度で自己研鑽し続ける力を身につけている。

授業の流れ(全体のスケジュール(回数)・学習内容・方法・備考 等)

回	学習内容と成果	方法	備考
1	呼吸・循環を整える援助 ・呼吸・循環を整えるとは ・呼吸を楽にする姿勢 ・呼吸法 ・吸入	講義	入江
2	呼吸・循環を整える援助 ・吸引 ・酸素吸入療法 ・人工呼吸器 ・循環促進ケア	講義	
3	呼吸を整える技術① ・安楽な体位 ・酸素療法 ・ネブライザー ・末梢循環促進ケア	演習	入江
4	呼吸を整える技術② ・体位ドレナージ ・吸引	演習	入江

5	体温管理の技術・循環促進ケア ・援助の基礎知識　・援助の実際	講義	入江
6	創傷管理技術 ・創傷管理の基礎知識 ・創傷処置・包帯法・褥瘡予防	講義	桑野
7	創傷管理技術 ・創の洗浄　・ドレッシング材の選択 ・三角巾、包帯法	演習	桑野
8	創傷管理技術 ・創の洗浄 ・褥瘡処置	演習	桑野
9	症状・生体機能管理の技術 ・検体検査　血液検査（静脈採血、動脈採血、血糖測定）	講義	桑野
10	症状・生体機能管理の技術 ・検体検査　尿検査　・便検査　・喀痰検査	講義	桑野
11	採血技術 静脈血採血　ホルダー採血（真空採血）法による静脈採血 シリンジ採血法による静脈採血	講義 DVD	佐藤
12	採血技術 技術演習準備 注射器・針の取り扱い（無菌操作） 演習シュミレーション・オリエンテーション（手順・評価）	講義 DVD	
13 14	採血技術 静脈血採血　ホルダー採血（真空採血）法による静脈採血 シリンジ採血法による静脈採血	演習	佐藤
15	まとめ 試験対策 国家試験対策	講義	桑野

受講上の注意

・必ず事前学習をして授業に参加する。
・教科書の QR コードの画像については事前に視聴しておく。
・演習に関する講義に欠席した場合は、原則演習に参加できない。
・講義に欠席した場合は、翌登校日に担当教員に相談に行く。
・演習時は、身だしなみチェック表に沿って、身だしなみを整える。
・演習手順を確認し、援助が実施できるようイメージしておく。
・授業開始 5 分前までに手洗いをすませておく。
・演習室内での飲食は禁止とし、指示された物品以外は持ち込まない。
・演習終了後は清掃を行い、終了後は担当教員へ報告する。
・演習を欠席した場合は、翌登校日に担当教員に相談し、時間外で自己学習を行う。

評価方法

筆記テスト 70%　演習 30%

使用するテキスト
「系統看護学講座 基礎看護技術Ⅰ 第19版」, 茂野香おる・他 著, 医学書院, 2026年 「系統看護学講座 基礎看護技術Ⅱ 第19版」, 任和子・他 著, 医学書院, 2026 年
参考文献

分野	専門分野	配当時期	2 年 前 期	講義担当者
教育内容	基礎看護学	単位数	1 単位	佐藤 みゆき
科目名	診療の補助技術Ⅱ	時間数	30 時間 15 回	

科目概要

相対的医療行為である診療の補助技術は対象者にとって身体侵襲を伴う看護行為である。そのため、医療事故を未然に防ぐことが重要であり、看護基礎技術の基盤となる安全・安楽をより意識した行動が必要となる。与薬の技術の看護などを科学的根拠に基づいて学ぶ。講義・演習を通して診療に伴う対象者の心理的・身体的な苦痛を理解し、単なる技術を学ぶのではなく、対象者にとって安全・安楽な技術を修得する。

授業目標

1 与薬の基礎知識および与薬における看護師の役割について理解し、安全に確実に与薬する技術を習得することができる。
2 根拠に基づき対象の安全・安楽に配慮した与薬の技術(経口与薬・口腔内与薬、吸入、点鼻、点眼、経皮的与薬、直腸内与薬)が実施できる。
3 根拠に基づき対象の安全・安楽に配慮した注射の技術(皮下注射・筋肉内注射・静脈内注射)が実施できる。
4 輸血管理の基礎知識を理解し援助の実際を学ぶ。

DPとの関連		
	○	1.生命の尊厳と人格を尊重し、看護の対象を全人的に理解する力を身につけている。
	○	2.健康課題に対して、科学的根拠に基づく看護を実践できる基礎的能力を身につけている。
	○	3.地域で暮らす人々の健康課題に関心を寄せ、様々な社会資源を活用し、対象の支援を考える基礎的能力を身につけている。
	○	4.看護専門職として責任をもち、保健・医療・福祉の一員として協働できる力を身につけている。
	○	5.誠実な態度で自己研鑽し続ける力を身につけている。

授業の流れ(全体のスケジュール(回数)・学習内容・方法・備考 等)

回	学習内容と成果	方法	備考
1	与薬の基礎知識 (1)おもな与薬方法と剤型 (2)投与経路別の薬物動態 与薬における看護師の役割 (1)正しい与薬 (2)薬の管理 (3)誤薬防止	講義	
2～3	与薬の技術①(経口与薬・口腔内与薬) (1)経口与薬・口腔内与薬の基礎知識 (2)経口与薬・口腔内与薬の実施方法	講義 演習	
4～5	与薬の技術②(吸入、点鼻、点眼) (1)吸入、点鼻、点眼の基礎知識 (2)吸入、点鼻、点眼の実施方法	講義 演習	
6～7	与薬の技術③(経皮的与薬、直腸内与薬) (1)経皮的与薬、直腸内与薬の基礎知識 (2)経皮的与薬、直腸内与薬の実施方法	講義 演習	
8	注射の基礎知識 (1)注射の基礎知識 (2)注射の実施法 皮内注射 皮下注射 筋肉内注射 静脈内注射 点滴静脈内注射 ア 実施上の責任(6R) イ 注射の準備	講義	

9～11	注射の技術①（皮下注射） ア 注射部位　イ 実施の評価と技術 注射の技術②（筋肉内注射） ア 注射部位　イ 実施の評価と技術	講義 演習	
12～14	注射の技術③（点滴静脈内注射） ア 注射部位　イ 実施の評価と技術	講義 演習	
15	輸血管理 (1)援助の基礎知識 ア 技術の概要　イ 輸血療法の目的 ウ 輸血療法の種類　エ 輸血の副作用 (2) 輸血の実際 ア 実施前の評価 イ 輸血の準備（患者への説明・必要物品） ウ 輸血の実施方法と留意点	講義	

受講上の注意

【講義準備】
講義資料は前週までに配布するため、必ず事前学習をして講義に参加する。
教科書の QR コードの画像については事前に視聴しておく。
演習手順を確認し、援助が実施できるようイメージしておく。

【演習について】
演習は、白衣、ナースシューズ、白の靴下を着用する。
髪は肩にかからないように整える。長い場合は、一つに結びネットでまとめる。
爪は短く切り、清潔に整える。
実習室には、指示された物品のみ持ち込む。
授業開始 5 分前までに手洗いをすませておく。

【演習の進め方】
準備・片づけはグループで協力してすすめる。
患者役・看護師役・観察者役を体験できるようにする
演習室内での飲食は禁止する。
廃棄物は学校の指示どおりに行う。
演習終了後は清掃を行い、終了後は担当教員へ報告する。

【その他】
講義を受けていない場合は演習に参加できない。
演習記録は評価の対象とするため、必ず提出する。
技術の状況によっては演習時間が延長する場合があるため、予定を入れないようにしておく。

評価方法

筆記テスト 60%　演習記録 30%　演習参加態度 10%

使用するテキスト

「系統看護学講座 基礎看護技術Ⅰ 第 19 版」, 茂野香おる・他 著, 医学書院, 2026 年
「系統看護学講座 基礎看護技術Ⅱ 第 19 版」, 任和子・他 著, 医学書院, 2026 年

参考文献

なし

分野	専門分野	配当時期	2 年 前 期	講義担当者
教育内容	基礎看護学	単位数	2 単位	西村 美耶
科目名	看護過程	時間数	45 時間 23 回	

科目概要

患者にとって必要な看護援助を行うために、患者の様々な現象を整理し、問題解決過程の技法に基づき科学的に分析する思考過程を学ぶ。看護の視点で情報収集・整理、解釈、分析・統合、看護問題の抽出というアセスメントプロセスと看護問題に対し、計画の立案、実施、評価するための方法を系統的に学ぶ。

授業目標

1 看護過程の構成要素とその関係性について説明できる。
2 アセスメントの枠組みについて説明できる。
3 情報の関連性を見出し、全体像を図式化できる。
4 看護問題について優先順位を決定できる。
5 看護問題について成果・指標および介入計画を立案し、記述できる。

DPとの関連		
	○	1.生命の尊厳と人格を尊重し、看護の対象を全人的に理解する力を身につけている。
	○	2.健康課題に対して、科学的根拠に基づく看護を実践できる基礎的能力を身につけている。
	○	3.地域で暮らす人々の健康課題に関心を寄せ、様々な社会資源を活用し、対象の支援を考える基礎的能力を身につけている。
		4.看護専門職として責任をもち、保健・医療・福祉の一員として協働できる力を身につけている。
	○	5.誠実な態度で自己研鑽し続ける力を身につけている。

授業の流れ(全体のスケジュール(回数)・学習内容・方法・備考 等)

回	学習内容と成果	方法	備考
1	看護過程の基盤となる思考過程 ・看護場面のクリティカルシンキングの概要と定義 ・看護過程とは	講義	
2	アセスメント① ・スクリーニングアセスメント、フォーカスアセスメント ・情報収集(情報源、面接・観察・測定、主観的・客観的情報)、てがかり(CUE)、情報の仕分け	講義	
3	アセスメント② ・アセスメント(情報収集と分析) ・情報の分析(判断・解釈・推論) ・不足情報の明確化 ・情報の妥当性	講義	
4	看護過程の実際① ・情報の整理と分析	演習 (個人ワーク)	
5	看護過程の実際② ・情報の整理と分析	演習 (グループワーク)	
6	看護過程の実際③ ・情報の整理と分析	演習 (グループワーク)	
7	看護過程の実際④ ・関連図と全体像の作成	演習 (個人ワーク)	
8	看護過程の実際⑤ ・関連図と全体像の作成	演習 (個人ワーク)	
9	看護過程の実際⑥	演習	

	・関連図と全体像の作成	（グループワーク）	
10	問題の明確化 ・看護診断の定義・歴史 ・NANDA-I 診断名、看護診断の種類、看護診断の定義 ・看護過程の第 2 段階としての看護診断（情報の統合、関連図） ・共同問題	講義	
11	看護過程の実際⑦ ・問題リストの作成	演習 （個人ワーク）	
12	看護過程の実際⑧ ・問題リストの作成	演習 （グループワーク）	
13	計画立案と評価 ・計画：優先順位の決定　・成果・指標の決定 ・介入計画（観察計画、ケア計画、教育計画）　・実践	講義	
14	看護過程の実際⑨ ・看護計画立案	演習 （個人ワーク）	
15	看護過程の実際⑩ ・看護計画立案	演習 （個人ワーク）	
16	看護過程の実際⑪ ・看護計画立案	演習 （グループワーク）	
17	看護過程の実際⑫ ・計画に基づく実施	演習 （グループワーク）	
18	看護過程の実際⑬ ・計画に基づく実施	演習 （グループワーク）	
19	看護記録 ・看護記録とは　・看護記録の構成　・評価	講義	
20	看護過程の実際⑭ ・発表	演習	
21	看護過程の実際⑮ ・発表	演習	
22	看護過程の実際⑯ ・発表	演習	
23	看護過程の実際⑰ ・まとめ	講義	

受講上の注意

講義を実施した後、個人のワーク後、グループによる学びを行う。
グループワークを行うためには、個人ワークが重要となるので確実に実施すること。
看護過程は臨地実習で各人がひとりで展開することを求められる。確実に一人で看護過程を展開できるように学修する。
この科目は基礎実習の先修要件となる。

評価方法

筆記テスト 40%　授業態度 20%　課題成果 40%

使用するテキスト

「系統看護学講座　基礎看護技術Ⅰ」, 茂野香おる・他 著, 医学書院, 2026 年 「NANDA-I 看護診断　定義と分類」, 上鶴重美 著, 医学書院, 2026 年
参考文献
「看護がみえる　vol.4　看護過程の展開」,永田明・石川ふみよ著,メディックメディア,2024 年

分野	専門分野	配当時期	2 年 前 期	講義担当者
教育内容	地域･在宅看護論	単位数	1 単位	入江 奈津恵
科目名	地域･在宅看護援助論Ⅱ	時間数	30 時間 15 回	

科目概要

地域に暮らすすべての人を対象とし、療養の場の拡大を踏まえ、暮らしを支える看護のポイントについて理解する。地域での暮らしが健康に与える影響を考え、安全に在宅療養が行えるような看護支援について学ぶ。また、地域共生社会における多職種連携の重要性、看護師が果たす役割について理解する。

授業目標

1 療養者の暮らしを取り巻くさまざまなリスクと対策がわかる。
2 暮らしにおける看護援助のアセスメントや援助のポイントがわかる。
3 地域･在宅看護における多職種連携･協働のなかで看護師が果たす役割や意義がわかる。

DPとの関連		
		1.生命の尊厳と人格を尊重し、看護の対象を全人的に理解する力を身につけている。
	○	2.健康課題に対して、科学的根拠に基づく看護を実践できる基礎的能力を身につけている。
	○	3.地域で暮らす人々の健康課題に関心を寄せ、様々な社会資源を活用し、対象の支援を考える基礎的能力を身につけている。
	○	4.看護専門職として責任をもち、保健･医療･福祉の一員として協働できる力を身につけている。
		5.誠実な態度で自己研鑽し続ける力を身につけている。

授業の流れ(全体のスケジュール(回数)･学習内容･方法･備考 等)

回	学習内容と成果	方法	備考
1 2	地域･在宅看護実践に欠かせない要素 ･地域･在宅看護を実践するにあたっての心構え ･チームで支えるとは ･対象者と看護師のパートナーシップ	講義	
3 4	セルフケアを支える対話･コミュニケーション ･対象者と看護師の対話 ･コミュニケーションエイドの種類の選択と使用	ロール プレイ GW	
5 6	在宅で求められる看護技術 地域･在宅看護における安全をまもる看護 ･地域･在宅看護実践におけるリスクマネジメント ･転倒･転落、溺水、火災、熱中症、誤嚥、窒息に対応 ･療養環境調整に関する看護技術(福祉用具)	講義 GW	
7	地域･在宅看護における活動と休息を支える看護 ･活動に関する看護技術 ･休息に関する看護技術	講義 GW	
8	地域･在宅看護における清潔･衣生活を支える看護① ･清潔･衣生活に関する看護	講義 GW	
9 10 11	地域･在宅看護における清潔･衣生活を支える看護② ･清潔援助計画 ･演習:洗髪、足浴	講義 演習	
12 13	地域･在宅における時期別の看護	講義	

14	地域共生社会の実現に向けた連携・協働 ・多職種連携・多職種チームでの協働 ・地域共生社会における連携・協働 ・医療・福祉・介護関係者以外との連携・協働 ・地域共生社会の実現のための方法	講義 GW	

受講上の注意

講義前には事前学習をしておくこと。
グループワークには積極的に参加すること。

評価方法

筆記テスト 80%　レポート 20%

使用するテキスト

「系統看護学講座 地域・在宅看護論[2] 地域・在宅看護の実践 第 6 版」,
河原加代子・他 著, 医学書院, 2026 年

参考文献

「基礎からわかる地域・在宅看護論」, 池西静江 著, 照林社, 2021 年
「看護実践のための根拠がわかる 在宅看護技術 第 3 版」,
正野逸子・他 編著, メヂカルフレンド社, 2021 年
「新訂第 2 版 写真でわかる訪問看護アドバンス」, 押川真喜子 監修, インターメディカ, 2023 年

分野	専門分野	配当時期	2 年 前 期	講義担当者
教育内容	地域･在宅看護論	単位数	2 単位	入江 奈津恵
科目名	地域･在宅看護援助論Ⅲ	時間数	45 時間 23 回	

科目概要

地域･在宅における看護過程の特徴を学び、事例を通して看護展開をする力を習得する。地域･在宅におけるマネジメントを考えることができ、在宅療養者や家族の在宅療養を支援していくために必要となる在宅での治療や看護の実際を理解する。

授業目標

1 地域･在宅看護における看護過程の特徴、各段階におけるポイントがわかる。
2 入院患者への看護技術との違いを意識しながら地域･在宅看護技術の実践方法がわかる。
3 事例を通して、一人ひとりの価値観にそった看護を提供する重要性がわかる。

DPとの関連		
	○	1.生命の尊厳と人格を尊重し、看護の対象を全人的に理解する力を身につけている。
	○	2.健康課題に対して、科学的根拠に基づく看護を実践できる基礎的能力を身につけている。
	○	3.地域で暮らす人々の健康課題に関心を寄せ、様々な社会資源を活用し、対象の支援を考える基礎的能力を身につけている。
		4.看護専門職として責任をもち、保健･医療･福祉の一員として協働できる力を身につけている。
	○	5.誠実な態度で自己研鑽し続ける力を身につけている。

授業の流れ(全体のスケジュール(回数)･学習内容･方法･備考 等)

回	学習内容と成果	方法	備考
1	地域･在宅看護の展開① ･地域･在宅看護における看護過程の意義	講義	
2	地域･在宅看護の展開② ･地域･在宅看護過程の展開方法	講義	
3	食事･栄養を支えるケア① ･食生活･嚥下に関する看護	講義	
4	食事･栄養を支えるケア② ･食生活･嚥下の援助技術	講義 DVD 視聴	
5	排泄を支えるケア① ･排泄に関する看護	講義	
6	排泄を支えるケア② ･排泄の援助技術	講義	
7	呼吸･循環を支えるケア① ･呼吸･循環に関する看護	講義	
8	呼吸･循環を支えるケア② ･呼吸･循環の援助技術	講義 DVD 視聴	
9	皮膚･創傷の管理① ･創傷管理に関する看護	講義	
10	皮膚･創傷の管理② ･創傷管理の援助技術	講義 DVD 視聴	
11	与薬に関する看護 ･地域･在宅看護における与薬 ･与薬のアセスメントのポイント ･与薬の在宅ケアにおけるポイント	講義	

12	地域・在宅における健康レベルの時期別看護① ・療養の場の移行に伴う看護	講義	
13	地域・在宅における健康レベルの時期別看護② ・病期に応じた在宅療養者への看護	講義	
14	地域・在宅看護の事例展開① ・医療的ケア児	講義	
15	地域・在宅看護の事例展開② ・脳血管疾患患者(脳卒中)	講義	
16	地域・在宅看護の事例展開③ ・呼吸器疾患患者(慢性閉塞性肺疾患)	講義	
17	地域・在宅看護の事例展開④ ・難病(ALS、パーキンソン病)	講義	
18	地域・在宅看護の事例展開⑤ ・精神疾患	講義 DVD 視聴	
19	地域・在宅看護の事例展開⑥ ・認知症	講義	
20	地域・在宅看護の事例展開⑦ ・がん終末期	講義	
21	地域・在宅看護のケアマネジメント ・ケアマネジメント　・看護マネジメント ・入退院支援　・退院前カンファレンス ・地域連携クリニカルパス	講義	
22	地域・在宅看護活動の創造と展開 ・暮らしの保健室 ・さまざまな地域・在宅看護活動の展開例 ・在宅看護の先駆的取り組み(海外)	講義	
23	訪問看護 ・訪問看護師に必要な態度・姿勢	講義 DVD 視聴	

受講上の注意

講義前には事前学習をしておくこと。
グループワークには積極的に参加すること。

評価方法

筆記テスト 70%　レポート 30%

使用するテキスト

「系統看護学講座 地域・在宅看護論[2] 地域・在宅看護の実践 第 6 版」,
河原加代子・他 著, 医学書院, 2026 年

参考文献

「基礎からわかる地域・在宅看護論」, 池西静江 著, 照林社, 2021 年
「看護判断のための気づきとアセスメント 地域・在宅看護」,
岸恵美子 著, 中央法規出版, 2022 年
「療養者が望む暮らしを支える地域・在宅看護過程」, 尾崎章子・他 編著, 医歯薬出版, 2023 年
「新訂第 2 版 写真でわかる訪問看護アドバンス」, 押川真喜子, インターメディカ, 2023 年

分野	専門分野	配当時期	2 年 前期	講義担当者
教育内容	成人看護学	単位数	1 単位	太田 真央
科目名	成人看護学援助論Ⅰ (『治す』から『暮らす』へ つなぐ看護)	時間数	21 時間 11 回	

科目概要

健康の危機的状況における急性期からのセルフケアの維持、回復～生活期におけるセルフケア再獲得に向けた看護を学ぶ。健康危機状況から回復していく過程の中で、生活機能障害を有する人が自身の生活に合わせたセルフケアを再獲得できるための看護援助を学び、QOL 向上と社会復帰に向けたリハビリテーション看護の視点も踏まえて学習する。

授業目標

1 セルフケア低下状態にある成人へのアセスメントの視点と各回復過程(急性期、回復期、生活期)における看護の役割が理解できる
2 セルフケア再獲得を必要とする成人へ看護援助の方法がわかる
3 生活機能障害を有する人とその家族の生活の再構築のための看護援助と社会システムが理解できる

DPとの関連		
	○	1.生命の尊厳と人格を尊重し、看護の対象を全人的に理解する力を身につけている。
	○	2.健康課題に対して、科学的根拠に基づく看護を実践できる基礎的能力を身につけている。
	○	3.地域で暮らす人々の健康課題に関心を寄せ、様々な社会資源を活用し、対象の支援を考える基礎的能力を身につけている。
	○	4.看護専門職として責任をもち、保健・医療・福祉の一員として協働できる力を身につけている。
		5.誠実な態度で自己研鑽し続ける力を身につけている。

授業の流れ(全体のスケジュール(回数)・学習内容・方法・備考 等)

回	学習内容と成果	方法	備考
1	セルフケア低下状態にある成人の理解 セルフケアの多義性 中途障害者のセルフケア再獲得に向けた看護 セルフケア再獲得モデル	講義	
2	セルフケア再獲得を支援する看護援助 生命維持レベルの支援 生活基本行動レベルの支援 社会生活レベルの支援	講義	
3	セルフケア再獲得を支援する社会システム チームアプローチの理論 チームメンバーの一員としての看護の役割 障害者が活用できる医療・福祉制度	講義 演習	
4 5	セルフケア再獲得を目指す成人への看護の実際① 大腿骨近位部骨折患者の看護 回復過程に沿った ADL 自立に向けた看護 合併症予防のための退院指導案の立案	講義 演習	
6 7	セルフケア再獲得を目指す成人への看護の実際② 脳出血急性期～回復期にある人の看護	講義 演習	
8 9	セルフケア再獲得を目指す成人への看護の実際③ 脳出血後の家庭復帰期にある人の看護(退院指導)	講義 演習	
10 11	セルフケア再獲得を目指す成人への看護の実際④ ストーマ増設患者のセルフケア指導	講義 演習	

受講上の注意
評価方法
筆記テスト 80%　授業態度(レポート提出含む)20%
使用するテキスト
「系統看護学講座 成人看護学 5 眼 第 15 版」, 南川雅子・他 著, 医学書院, 2026 年 「系統看護学講座 成人看護学 7 脳・神経 第 16 版」, 井出隆文・他 著, 医学書院, 2026 年 「系統看護学講座 成人看護学 10 運動器 第 16 版」, 田中栄・他 著, 医学書院, 2026 年 「系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護 第 7 版」, 原三紀子・他 著, 医学書院, 2026
参考文献
「看護学テキスト NiCE リハビリテーション看護 障害のある人の可能性とともに歩む 第 3 版」,酒井郁子・他 著,南江堂,2024 年 「ナーシンググラフィカ 成人看護学② 康危機状況/セルフケアの再獲得 第 2 版」, 吉田澄恵・他 著,メディカ出版

分野	専門分野	配当時期	2 年 前期	講義担当者
教育内容	成人看護学	単位数	2 単位	野田 建二 清永 高志 平野 薫
科目名	成人看護援助論Ⅲ （周術期看護）	時間数	27 時間 14 回	

科目概要

急性期にある対象の特徴、疾病や治療、周術期看護について学び、急性期にある対象とその家族に対する看護を理解する。また、急性期にある対象とその家族に対する看護の展開と看護実践をするために必要な知識と技術を学ぶ。

授業目標

1 生命の危機的状況にある対象とその家族に必要な看護を学ぶ
2 手術による麻酔侵襲や手術侵襲による生体反応と回復過程が理解できる
3 手術による合併症や二次的障害、術式による特徴をふまえ、合併症予防と回復促進のための看護を理解することができる
4 手術を終え社会復帰を目指す対象と家族の生活を再構築するための看護を理解することができる
5 ドレーン管理、術直後の観察の演習を通して、根拠をふまえて必要な援助技術が実践できる
6 急性期看護における倫理的課題について理解することができる

DPとの関連		
	○	1.生命の尊厳と人格を尊重し、看護の対象を全人的に理解する力を身につけている。
	○	2.健康課題に対して、科学的根拠に基づく看護を実践できる基礎的能力を身につけている。
	○	3.地域で暮らす人々の健康課題に関心を寄せ、様々な社会資源を活用し、対象の支援を考える基礎的能力を身につけている。
	○	4.看護専門職として責任をもち、保健・医療・福祉の一員として協働できる力を身につけている。
	○	5.誠実な態度で自己研鑽し続ける力を身につけている。

授業の流れ（全体のスケジュール（回数）・学習内容・方法・備考 等）

回	学習内容と成果	方法	備考
1	周手術期の看護 ・外科看護の目的、役割、課題 ・周術期看護の概論 （手術を受ける患者の状況、チーム医療と看護師の役割、インフォームドコンセント、安全管理、院内感染予防）	講義	野田
2	外科医療の基礎・外科治療の実際 ・手術侵襲 ・生体反応 ・ムーアの回復過程 ・炎症 ・感染症 ・創治癒 ・外科的基本手技 ・体腔穿刺 ・低侵襲手術 ・臓器移植	講義 DVD 視聴	清永
3	手術前患者の看護 ・外来における手術前の患者の看護 ・意思決定支援 ・術後合併症のリスクアセスメント ・手術前看護の具体的援助 ・日帰り手術を受ける患者の看護	講義 DVD 視聴	清永
4	手術中患者の看護 ・手術室の環境 ・麻酔中の看護 ・手術の体位 ・手術室の看護師の役割 ・手術室における安全管理	講義・演習 DVD 視聴	清永
5	手術後患者の看護① ・術後の病床環境 ・術後のモニタリングとアセスメント ・術後合併症予防と回復への看護（早期離床、疼痛管理、輸液と栄養管理、ドレーン管理）	講義 DVD 視聴	清永
6	手術後患者の看護② ・形態変化や機能障害に対する適応への援助 ・退院に向けた指導・支援	講義 DVD 視聴	清永

7	開腹手術を受ける人の看護① ・事例検討　・情報収集とアセスメント	演習・GW （事前課題）	平野
8	開腹手術を受ける人の看護② ・看護問題と援助	演習・GW （事前課題）	平野
9 10	開腹手術を受ける人の看護③④ 「術後患者の観察とアセスメント」 ・術直後患者の看護実践（シミュレーション）	演習・GW （事前課題）	平野
11 12	開腹手術を受ける人の看護⑤⑥ 「回復を促進するための援助」 ・初回離床の看護実践（シミュレーション）	演習・GW （事前課題）	平野
13	開腹手術を受ける人の看護⑦ ・障害の適応に向けた援助　・退院支援に向けた看護	演習・GW	平野
14	開腹手術を受ける人の看護⑧ ・事例に基づいた援助方法の検討（看護実践からの学び）	演習・GW	平野

受講上の注意

評価方法

筆記テスト 80%　授業態度（演習態度、レポート提出含む）20%

使用するテキスト

「系統看護学講座 臨床外科看護各論 第 10 版」, 北川雄光・江川幸二・他 編, 医学書院, 2026 年
「系統看護学講座 臨床外科看護総論 第 12 版」, 池上徹・高橋則子・他 編, 医学書院, 2026 年

参考文献

なし

分野	専門分野	配当時期	2 年 前 期	講義担当者
教育内容	老年看護学	単位数	1 単位	木戸 信子
科目名	老年看護学援助論Ⅰ	時間数	30 時間 15 回	

科目概要

高齢者の生理的特徴およびフィジカルアセスメントについて学び、高齢者の疾患の特徴を捉えながら科学的根拠に基づき、全人的に看護を展開するうえでの留意点を学習する。

授業目標

1 老年症候群を理解する。
2 高齢者のフィジカルアセスメントについて理解する。
3 高齢者の疾患の特徴について理解する。
4 高齢者の薬物治療時の留意点、リハビリテーションについて理解する。
5 高齢者に多い医療事故と安全を確保する視点について理解する。

DPとの関連		
	○	1.生命の尊厳と人格を尊重し、看護の対象を全人的に理解する力を身につけている。
	○	2.健康課題に対して、科学的根拠に基づく看護を実践できる基礎的能力を身につけている。
	○	3.地域で暮らす人々の健康課題に関心を寄せ、様々な社会資源を活用し、対象の支援を考える基礎的能力を身につけている。
	○	4.看護専門職として責任をもち、保健・医療・福祉の一員として協働できる力を身につけている。
	○	5.誠実な態度で自己研鑽し続ける力を身につけている。

授業の流れ(全体のスケジュール(回数)・学習内容・方法・備考 等)

回	学習内容と成果	方法	備考
1	「超高齢社会」における老年看護への期待	講義	
2	老年症候群①	講義	
3	老年症候群②	講義	
4	高齢者の健康状態の把握と総合機能評価	講義	
5	高齢者のヘルスアセスメント①	講義	
6	高齢者のヘルスアセスメント②	講義	
7	高齢者の疾患の特徴① ・認知症・精神・神経疾患	講義	
8	高齢者の疾患の特徴② ・循環器系の疾患 ・呼吸器系疾患	講義	
9	高齢者の疾患の特徴③ ・消化器系疾患 ・内分泌・代謝・自己免疫疾患	講義	
10	高齢者の疾患の特徴④ ・血液疾患 ・腎・泌尿器系疾患 ・運動器の疾患	講義	
11	高齢者の疾患の特徴⑤ ・皮膚・感覚器疾患 ・歯・口腔・感染症の疾患	講義	
12	高齢者と薬	講義	
13	高齢者のリハビリテーション	講義	
14	高齢者のリスクマネジメント①(KYT)	ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸ	
15	高齢者のリスクマネジメント②	講義	

受講上の注意
ディスカッション・グループワークでは積極的に発言すること。 基礎看護学や解剖生理学、疾病治療論などの関連講義の聴講資料を持参すること。
評価方法
筆記テスト 80%　授業態度・グループワーク参加状況など 20%
使用するテキスト
「系統看護学講座 老年看護学 第 10 版」, 北川公子・他 著, 医学書院, 2026 年 「系統看護学講座 老年看護 病態・疾患論 第 6 版」, 鳥羽研二・他 著, 医学書院, 2026 年
参考文献
なし

分野	専門分野	配当時期	2 年 前 期	講義担当者
教育内容	老年看護学	単位数	1 単位	木戸 信子
科目名	老年看護学援助論Ⅱ	時間数	24 時間 12 回	

科目概要

高齢者の健康障害の特徴と高齢者にみられる健康障害と看護について学び、高齢者の健康レベルに応じた看護を展開するための基礎的な知識を理解する。また、エンドステージにある高齢者の看護について学び考えることができる。

授業目標

1 高齢者の生活機能を整える看護について理解することができる。
2 高齢者の疾患の特徴に合わせた看護が理解できる。
3 高齢者のエンドオブライフケアについて考えることができる。

DPとの関連		
	○	1.生命の尊厳と人格を尊重し、看護の対象を全人的に理解する力を身につけている。
	○	2.健康課題に対して、科学的根拠に基づく看護を実践できる基礎的能力を身につけている。
	○	3.地域で暮らす人々の健康課題に関心を寄せ、様々な社会資源を活用し、対象の支援を考える基礎的能力を身につけている。
	○	4.看護専門職として責任をもち、保健・医療・福祉の一員として協働できる力を身につけている。
	○	5.誠実な態度で自己研鑽し続ける力を身につけている。

授業の流れ(全体のスケジュール(回数)・学習内容・方法・備考 等)

回	学習内容と成果	方法	備考
1	高齢者の生活機能を整える看護①	講義	
2	高齢者の生活機能を整える看護②	講義	
3	高齢者の生活機能を整える看護③	講義	
4	健康逸脱からの回復を促す看護①	講義	
5	健康逸脱からの回復を促す看護②	講義	
6	健康逸脱からの回復を促す看護③	講義	
7	治療を必要とする高齢者の看護①	講義	
8	治療を必要とする高齢者の看護②	講義	
9	生活・療養の場における看護①	講義	
10	生活・療養の場における看護②	講義	
11	エンドオブライフケア①	講義	
12	エンドオブライフケア②	講義	

受講上の注意

ディスカッション・グループワークは積極的に発言すること。
レポート提出期限を守ること。

評価方法

筆記テスト 80% 授業態度・グループワーク参加状況等 20%

使用するテキスト

「系統看護学講座 老年看護学 第 10 版」, 北川公子・他 著, 医学書院, 2026 年
「系統看護学講座 老年看護 病態・疾患論 第 6 版」, 鳥羽研二・他 著, 医学書院, 2026 年

参考文献

「死亡直前と看取りのエビデンス 第 2 版」, 森田達也・白土明美 著, 医学書院, 2023 年

分野	専門分野	配当時期	2 年 前 期	講義担当者
教育内容	小児看護学	単位数	1 単位	清成 万里子
科目名	小児看護学概論	時間数	15 時間 8 回	

科目概要

子どもや家族を取り巻く社会の変化や小児保健の動向を学び、小児看護の役割を考える。また、子どもの成長発達過程の特徴を学び、子どもの健康の捉え方や小児期における家族の重要性を理解し、健康増進のための子どもと家族への援助を考察する能力を養う。

授業目標

1 小児看護の変遷や社会的状況から小児看護の役割が理解できる。
2 子どもの基本的な権利と擁護に関わる法律を理解し、小児看護における倫理を考える。
3 健康な子どもの各期の成長・発達の特徴を理解する。
4 小児期における家族の重要性と健康増進のための子どもと家族の看護を理解する。

DPとの関連		
	○	1.生命の尊厳と人格を尊重し、看護の対象を全人的に理解する力を身につけている。
		2.健康課題に対して、科学的根拠に基づく看護を実践できる基礎的能力を身につけている。
	○	3.地域で暮らす人々の健康課題に関心を寄せ、様々な社会資源を活用し、対象の支援を考える基礎的能力を身につけている。
		4.看護専門職として責任をもち、保健・医療・福祉の一員として協働できる力を身につけている。
		5.誠実な態度で自己研鑽し続ける力を身につけている。

授業の流れ(全体のスケジュール(回数)・学習内容・方法・備考 等)

回	学習内容と成果	方法	備考
1	小児看護の特徴と理念 ・小児看護の対象、目標と役割 ・小児と家族の諸統計 ・小児看護の変遷 ・小児看護における倫理(子どもの権利) ・小児看護の課題	講義・GW	
2	子どもの成長・発達① ・成長・発達とは ・成長・発達の一般原則 ・影響する因子 ・成長・発達の評価	講義・GW	
3	子どもの成長・発達② ・新生児期・乳児期	講義・GW	
4	子どもの成長・発達③ ・幼児期	講義・GW	
5	子どもの成長・発達④ ・学童期	講義・GW	
6	子どもの成長・発達⑤ ・思春期・青年期	講義・GW	
7	家族の特徴とアセスメント ・子どもにとっての家族とは ・家族のアセスメント	講義	
8	子どもと家族を取り巻く社会 ・児童福祉法 ・母子保健 ・医療費の支援 ・予防接種 ・学校保健	講義	

受講上の注意

事前に教科書や講義資料に目を通し、自ら学ぶ姿勢をもち積極的な参加を求める。

評価方法
筆記テスト 80%　課題(提出状況・内容)や講義への参加状況 20%
使用するテキスト
「系統看護学講座 小児看護学 1 小児看護学概論・小児臨床看護総論 第 14 版」, 奈良間美保・他 著, 医学書院, 2026 年
参考文献
「公衆衛生がみえる 2026-2027」メディックメディア, 2026 年

分野	専門分野	配当時期	2 年 前 期	講義担当者
教育内容	小児看護学	単位数	2 単位	清成 万里子
科目名	小児看護学援助論Ⅰ	時間数	45 時間 23 回	

科目概要

健康障害が子どもの成長・発達や日常生活、家族に与える影響を理解し、様々な健康レベルや状況下にある子どもと家族に対して、発達段階に応じた援助について理解する能力を養う。

授業目標

1 病気や診療・入院が子どもと家族へ与える影響とその看護が理解できる。
2 小児期にみられる主な症状と経過の特徴に応じた看護が理解できる。
3 医療的ケアを必要とする子どもの看護が理解できる。
4 疾患を持つ子どもとその家族への看護が理解できる。

DPとの関連		
	○	1.生命の尊厳と人格を尊重し、看護の対象を全人的に理解する力を身につけている。
	○	2.健康課題に対して、科学的根拠に基づく看護を実践できる基礎的能力を身につけている。
	○	3.地域で暮らす人々の健康課題に関心を寄せ、様々な社会資源を活用し、対象の支援を考える基礎的能力を身につけている。
		4.看護専門職として責任をもち、保健・医療・福祉の一員として協働できる力を身につけている。
		5.誠実な態度で自己研鑽し続ける力を身につけている。

授業の流れ(全体のスケジュール(回数)・学習内容・方法・備考 等)

回	学習内容と成果	方法	備考
1	病気・障害をもつ子どもと家族の看護 ・病気が子どもと家族に与える影響 ・子どもの健康問題と看護	講義	
2	子どもの状況(環境)に特徴づけられる看護① ・入院中の子どもと家族の看護 ・外来における子どもと家族の看護	講義	
3	子どもの状況(環境)に特徴づけられる看護② ・在宅医療を必要とする子どもと家族の看護(医療的ケアを必要とする)	講義 DVD 視聴	
4	子どもの状況(環境)に特徴づけられる看護③ ・災害時の子どもと家族の看護	講義	
5	子どもにおける疾病の経過と看護① ・慢性期の特徴と看護	講義・GW	
6	子どもにおける疾病の経過と看護② ・急性期の特徴と看護	講義・GW	
7	子どもにおける疾病の経過と看護③ ・周手術期の特徴と看護	講義・GW	
8	子どもにおける疾病の経過と看護④ ・終末期の特徴と看護	講義・GW	
9	症状を示す子どもの看護① ・不機嫌 ・啼泣 ・痛み ・呼吸困難 ・チアノーゼ ・ショック ・意識障害 ・痙攣 ・発熱	講義	

10	症状を示す子どもの看護② ・嘔吐、下痢、便秘　・脱水　・浮腫　・出血 ・貧血　・発疹　・黄疸	講義	
11	障害のある子どもと家族と看護	講義	
12	子どもの虐待と看護	講義	
13	疾患をもった子どもの看護① ・染色体異常・先天異常	講義	
14	疾患をもった子どもの看護② ・代謝性疾患、内分泌疾患	講義	
15	疾患をもった子どもの看護③ ・免疫疾患・アレルギー疾患・リウマチ性疾患	講義	
16	疾患をもった子どもの看護④ ・感染症・呼吸器疾患	講義	
17	疾患をもった子どもの看護⑤ ・循環器疾患	講義	
18	疾患をもった子どもの看護⑥ ・消化器疾患	講義	
19	疾患をもった子どもの看護⑦ ・血液・造血器疾患、悪性新生物	講義	
20	疾患をもった子どもの看護⑧ ・腎・泌尿器および生殖器疾患	講義	
21	疾患をもった子どもの看護⑨ ・神経疾患、精神疾患、運動器疾患	講義	
22	疾患をもった子どもの看護⑩ ・皮膚疾患、眼疾患、耳鼻咽喉科疾患	講義	
23	疾患をもった子どもの看護⑪ ・事故・外傷	講義	

受講上の注意

事前に教科書や講義資料に目を通し、自ら学ぶ姿勢をもち積極的な参加を求める。

評価方法

筆記テスト 80%　課題(提出状況・内容)や講義への参加状況 20%

使用するテキスト

「系統看護学講座 小児看護学 1 小児看護学概論・小児臨床看護総論 第 14 版」,
奈良間美保・他 著, 医学書院, 2026 年
「系統看護学講座 小児看護学 2 小児臨床看護護各論 第 14 版」,
奈良間美保・他 著, 医学書院, 2026 年

参考文献

「病気が見える 小児 第 1 版」, 東海林宏通・他 監修, メディックメディア, 2022 年
「小児の発達と看護」中野 綾美・他 メディカ出版, 2024 年
「小児の疾患と看護」中村 友彦・他 メディカ出版, 2024 年

分野	専門分野	配当時期	2 年 前 期	講義担当者
教育内容	母性看護学	単位数	1 単位	能塚 きよみ
科目名	母性看護学概論	時間数	20 時間 10 回	

科目概要

母性の概念およびリプロダクティブヘルス/ライツの視点から性と生殖に関する健康について理解し、母性看護の意義や特性、役割について学ぶ。また、女性のライフサイクルにおける各期の特徴および健康課題から、女性の生涯にわたる健康維持・増進、疾病予防の対策について理解することで母性看護の対象への理解を深める。

授業目標

1 母性看護の概念がわかる。
2 リプロダクティブヘルス/ライツの意義がわかる。
3 母性看護の対象とその特徴が理解できる。
4 母性看護を取り巻く社会の変遷と現状が理解できる。
5 ライフステージ各期における女性の健康と健康問題が理解できる

DPとの関連		
	○	1.生命の尊厳と人格を尊重し、看護の対象を全人的に理解する力を身につけている。
		2.健康課題に対して、科学的根拠に基づく看護を実践できる基礎的能力を身につけている。
	○	3.地域で暮らす人々の健康課題に関心を寄せ、様々な社会資源を活用し、対象の支援を考える基礎的能力を身につけている。
		4.看護専門職として責任をもち、保健・医療・福祉の一員として協働できる力を身につけている。
		5.誠実な態度で自己研鑽し続ける力を身につけている。

授業の流れ(全体のスケジュール(回数)・学習内容・方法・備考 等)

回	学習内容と成果	方法	備考
1	母性看護の基盤となる概念① ・母性とは ・母子関係と家族発達	講義	
2	母性看護の基盤となる概念② ・セクシュアリティ ・リプロダクティブヘルス/ライツ ・母性看護のあり方・倫理 ・安全と事故防止	講義	
3	母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状① ・母性看護の歴史的変遷と現状	講義	
4	母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状② ・母性看護の提供システム	講義	
5	母性看護の対象理解 ・女性のライフサイクルにおける形態・機能の変化 ・女性のライフサイクルと家族 ・女性の発達・成熟・継承	講義	
6	女性のライフステージ各期における健康と看護① ・ライフサイクルにおける女性の健康と看護 ・思春期の健康と看護	講義	
7	女性のライフステージ各期における健康と看護② ・性成熟期の健康と看護	講義	
8	女性のライフステージ各期における健康と看護③ ・更年期・老年期の健康と看護	講義	

9	リプロダクティブヘルスケア① ・家族計画、性感染症とその予防 ・HIV に感染した女性に対する看護	講義	
10	リプロダクティブヘルスケア② ・人工妊娠中絶と看護　・喫煙と女性の健康 ・性暴力を受けた女性に対する看護 ・児童虐待と看護　・国際化社会と看護	講義	
受講上の注意 事前に教科書や講義資料に目を通し、自ら学ぶ姿勢をもち積極的な参加を求める。			
評価方法 筆記テスト 80%　課題(提出状況・内容)や講義への参加状況 20%			
使用するテキスト 「系統看護学講座 母性看護学概論 第 15 版」, 森恵美・他 著, 医学書院, 2026 年 「系統看護学講座 母性看護学各論 第 15 版」, 森恵美・他 著, 医学書院, 2026 年			
参考文献 「公衆衛生がみえる 2026-2027」, メディックメディア, 2026 年 「病気が見える 産科 第 4 版」, 井上裕美・他 監修, メディックメディア, 2018 年			

分野	専門分野	配当時期	2 年 前 期	講義担当者
教育内容	母性看護学	単位数	2 単位	池田 千鶴
科目名	母性看護学援助論Ⅰ	時間数	45 時間 23 回	

科目概要

妊娠・分娩・産褥期および新生児期の経過を理解し、各時期の対象におこる変化や適応状態をアセスメントし、順調な妊娠・産褥期を過ごすために必要な看護、さらに妊娠・分娩の異常、健康を逸脱した褥婦および新生児の看護について基本的知識を修得する。

授業目標

1 妊娠・分娩・産褥期および新生児期の正常経過とその看護が理解できる。
2 妊娠・分娩・産褥期および新生児期にある母子のアセスメントができる。
3 妊娠・分娩・産褥期および新生児期の異常とその看護がわかる。

DPとの関連		
	○	1.生命の尊厳と人格を尊重し、看護の対象を全人的に理解する力を身につけている。
		2.健康課題に対して、科学的根拠に基づく看護を実践できる基礎的能力を身につけている。
	○	3.地域で暮らす人々の健康課題に関心を寄せ、様々な社会資源を活用し、対象の支援を考える基礎的能力を身につけている。
		4.看護専門職として責任をもち、保健・医療・福祉の一員として協働できる力を身につけている。
	○	5.誠実な態度で自己研鑽し続ける力を身につけている。

授業の流れ(全体のスケジュール(回数)・学習内容・方法・備考 等)

回	学習内容と成果	方法	備考
1	出生前からのリプロダクティブヘルスケア① ・リプロダクティブヘルスケアの必要性 ・遺伝相談	講義	
2	出生前からのリプロダクティブヘルスケア② ・不妊治療と看護	講義	
3	妊娠期の看護① ・妊娠期の身体的	講義	
4	妊娠期の看護② ・心理的・社会的特性	講義	
5	妊娠期の看護③ ・妊婦と胎児のアセスメント	演習	
6	妊娠期の看護④ ・妊婦と家族の看護	演習	
7	分娩期の看護① ・分娩の要素 ・分娩の経過	演習	
8	分娩期の看護② ・産婦・胎児・家族のアセスメント ・産婦と家族の看護	講義	
9	分娩期の看護③ ・分娩各期の看護の実際	講義	
10	産褥期の看護① ・産褥経過	講義	
11	産褥期の看護② ・褥婦のアセスメント	講義	

12	産褥期の看護③ ・褥婦と家族の看護	講義	
13	産褥期の看護④ ・退院後の看護	講義	
14	新生児期の看護① ・新生児の生理	講義	
15	新生児期の看護② ・新生児のアセスメント	講義	
16	新生児期の看護③ ・新生児の看護	講義	
17	妊娠・分娩・産褥・新生児の異常と看護① ・ハイリスク妊娠　・妊娠期の感染症・疾患	講義	
18	妊娠・分娩・産褥・新生児の異常と看護② ・多胎妊娠　・妊娠持続時間の異常 ・異所性妊娠　・ハイリスク妊婦の看護	講義	
19	妊娠・分娩・産褥・新生児の異常と看護③ ・産道、娩出力の異常　・胎児の異常による分娩障害 ・胎児付属物の異常　・分娩時の損傷 ・第 3 期および直後の異常	講義	
20	妊娠・分娩・産褥・新生児の異常と看護④ ・産科処置と産科手術　・異常のある産婦の看護 ・異常分娩時の産婦の看護 ・分娩時異常出血のある産婦の看護	講義	
21	妊娠・分娩・産褥・新生児の異常と看護⑤ ・子宮復古不全　・産褥期の発熱　・産褥血栓症 ・精神障害　・異常のある褥婦の看護	講義	
22	妊娠・分娩・産褥・新生児の異常と看護⑥ ・新生児仮死　・分娩時外傷　・低出生体重児	講義	
23	妊娠・分娩・産褥・新生児の異常と看護⑦ ・高ビリルビン血症　・ビタミン K 欠乏症	講義	

受講上の注意

事前に教科書や講義資料に目を通し、自ら学ぶ姿勢をもち積極的な参加を求める。

評価方法

筆記テスト 80%　課題(提出状況・内容)や講義への参加状況 20%

使用するテキスト

「系統看護学講座 母性看護学概論 第 15 版」, 森恵美・他 著, 医学書院, 2026 年
「系統看護学講座 母性看護学各論 第 15 版」, 森恵美・他 著, 医学書院, 2026 年

参考文献

「公衆衛生がみえる 2026-2027」, メディックメディア, 2026 年
「病気が見える 産科 第 4 版」, 井上裕美・他 監修, メディックメディア, 2018 年

分野	専門分野	配当時期	2 年 前 期	講義担当者
教育内容	精神看護学	単位数	1 単位	西村 美耶
科目名	精神看護学援助論Ⅰ	時間数	21 時間 11 回	

科目概要

本科目では、精神看護学概論で学んだ精神科医療における課題と倫理観を基盤に、精神に困難を抱える人々の理解と援助のあり方を学ぶ。精神障害を持つ対象を「病気」としてだけでなく、その人の人生の中に位置づけて捉え、ライフサイクルや危機に応じた支援方法を考察する。精神看護の対象のライフサイクル各期において生じるおそれのある健康問題への医学的対応とその看護について学ぶ科目である。また、病気を存在でなく状態ととらえ、対象者を回復の途中にある存在とし、ケアの人間関係についても学習していく。

授業目標

1 精神看護の症状の捉え方を説明することができる。
2 精神障害の診断と分類とそれに基づく主な精神疾患の特徴と治療を理解できる。
3 精神症状に応じた援助方法について説明することができる。

DPとの関連		
	○	1.生命の尊厳と人格を尊重し、看護の対象を全人的に理解する力を身につけている。
	○	2.健康課題に対して、科学的根拠に基づく看護を実践できる基礎的能力を身につけている。
	○	3.地域で暮らす人々の健康課題に関心を寄せ、様々な社会資源を活用し、対象の支援を考える基礎的能力を身につけている。
		4.看護専門職として責任をもち、保健・医療・福祉の一員として協働できる力を身につけている。
		5.誠実な態度で自己研鑽し続ける力を身につけている。

授業の流れ(全体のスケジュール(回数)・学習内容・方法・備考 等)

回	学習内容と成果	方法	備考
1	精神機能障害の症状	講義 GW	
2	精神障害の分類と精神障害① 統合失調症	講義	
3	精神障害の分類と精神障害② 気分[感情]障害(双極性障害および関連性障害群、抑うつ障害群)	講義	
4	精神障害の分類と精神障害③ 神経性障害、ストレス関連障害および身体表在性障害	講義	
5	精神障害の分類と精神障害④ 精神作用物質使用による精神および行動の障害 (1)アルコール症 (2)薬物依存症 (3)ゲーム／ギャンブル依存症	講義	
6	ライフサイクルごとの危機と精神障害① 発達遅滞、発達障害、パーソナリティ障害、摂食障害	講義	
7	ライフサイクルごとの危機と精神障害② 産後うつ、適応障害、ミッドライフクライシス、老年期うつ	講義	
8	回復を支援する	講義	
9	ケアの人間関係	講義	
10	関係をアセスメントする① 精神看護におけるプロセスレコード	講義・演習	
11	関係をアセスメントする② プロセスレコードの活用	講義・演習	

受講上の注意
講義前には事前学習をしておくこと。
評価方法
筆記テスト 70%　レポート 30%
使用するテキスト
「系統看護学講座 精神看護学[1] 精神看護の基礎」, 武井麻子･他 著, 医学書院, 2026 年

分野	専門分野	配当時期	2 年 前 期	講義担当者
教育内容	精神看護学	単位数	1 単位	中村 暖美
科目名	精神看護学援助論Ⅱ	時間数	21 時間 11 回	西村 美耶

科目概要

精神科病棟で勤務する現役看護師による講義を通じて、精神疾患別の看護の特徴や、病棟での治療・身体的ケアの実際について学ぶ。身体合併症を持つ患者への対応や薬物療法の基礎知識を得て、精神と身体の統合的な看護の重要性を理解する。現場のリアルな語りを通して、患者との関係性づくり、退院支援における多職種連携、倫理的課題にも視点を広げ、領域別実習での看護実践をイメージできることを目的とする。

授業目標

1 精神看護学における人権擁護と倫理的側面について考えることができる
2 精神科看護におけるケアの方法を理解する。
3 入院治療における看護を理解する
4 精神科における治療と看護を理解する。

DPとの関連		
	○	1.生命の尊厳と人格を尊重し、看護の対象を全人的に理解する力を身につけている。
	○	2.健康課題に対して、科学的根拠に基づく看護を実践できる基礎的能力を身につけている。
	○	3.地域で暮らす人々の健康課題に関心を寄せ、様々な社会資源を活用し、対象の支援を考える基礎的能力を身につけている。
		4.看護専門職として責任をもち、保健・医療・福祉の一員として協働できる力を身につけている。
	○	5.誠実な態度で自己研鑽し続ける力を身につけている。

授業の流れ(全体のスケジュール(回数)・学習内容・方法・備考 等)

回	学習内容と成果	方法	備考
1	入院治療の意味	講義	
2	統合失調症の診断と看護	講義	
3	気分障害の診断と看護	講義	
4	依存症の診断と看護	講義	
5	入院中の安全管理	講義	
6	精神科における身体のケア	講義	
7	精神科における薬物療法と看護	講義	
8	精神科における検査と看護	講義	
9	精神科における治療と看護	講義	
10	回復のためのケア SST のロールプレイ	講義・演習	
11	退院支援と多職種連携 チームで協働すること	講義	

受講上の注意

講義前には事前学習をしておくこと。

評価方法

筆記テスト 70% レポート、授業態度 30%

使用するテキスト

「系統看護学講座 精神看護学[1] 精神看護の基礎 第 6 版」, 武井麻子・他 著, 医学書院, 2026 年
「系統看護学講座 精神看護学[2] 精神看護の展開 第 6 版」, 武井麻子・他 著, 医学書院, 2026 年